



○入院している病院の医療者にお願いしたいこと

- 本人が学習に取り組みやすいように配慮する。

入院中も学習を続けることは、本人が復学を目指す上でとても大切なことです。また、復学後に学級の仲間との学習の開きがあることは、本人にとって大きな不安になる傾向があります。そうしたことを考えると、入院中の学習はとても大切なので、学習保障のために院内学級や原籍校の教員と協力して取り組めるとよいです。

病院内に院内学級がある場合には、病状や治療の見通しを院内学級の教員と共有（保護者の了解を得て）できるとよいです。そうすることにより、日ごろの学習だけでなく、テストの実施や原籍校の行事への参加等がスムーズに実施できるようになります。

病院内に院内学級がない場合には、学習環境等を整えたり、病状や治療の見通し等を原籍校の教員と共有（保護者の了解を得て）したりして、本人の体調に合わせた学習ができるように支援できるとよいです。

- 原籍校や院内学級の教員や保護者と連携する。

入院中の学習をスムーズに進めるには、本人の病状や治療の見通し、そして心理状態を周囲の支援者（保護者、教員、保育士、訓練士等）が共通理解した上で進めることが大切です。個人情報に関わる内容も多いので、医療者として積極的に保護者の理解を得て、学習に関わる支援者（保護者、教員、保育士、訓練士等）に治療の見通しや配慮事項等を伝えたり、相手からの質問にできる限り具体的（専門用語等を使用せず）に答えたりしていけるとよいです。

- 本人や保護者が病気理解をするための支援をする。

退院後、本人や保護者が病気について、学級の仲間等に伝えるかもしれないことを視野に入れ、病気についての理解を本人や保護者がするための支援ができるとよいです。それは、同時に本人の自己理解にもつながり、治療を前向きに進めるために大切なことでもあります。説明の際には、ホワイトボード等に絵や図を描き、より説明内容がイメージしやすいような工夫をするとうよいです。